

社会福祉法人日本国際社会事業団

# INTERNATIONAL SOCIAL SERVICE JAPAN

ひとりひとりが  
チャンスをつかめる社会



## Our Vision

# ひとりひとりがチャンスをつかめる社会



### 誰もが自分らしく生きられる社会の実現をめざして

国や地域を越えた人々の移動が加速する中で、家族のあり方や生活上の課題、必要となる支援も多様化しています。その一方で、既存の法制度や支援の枠組みが社会の変化に追いつかず、取り残されてしまう人々も存在します。日本国際社会事業団 (ISSJ) は、生まれ育った環境や国籍などによって、社会の中で構造的に弱い立場に置かれがちな人々、とりわけ子どもたちが、健やかに生まれ、成長できる社会の実現を目指しています。私たちは、ひとりひとりに寄り添い、生きる力を支援します。

## 私たちについて

Who we are

1952年、戦後の日本で養育者を必要とする子どもたちを救済するために、日米孤児合同救済委員会が発足しました。同委員会は、1955年に子どもの福祉のために活動する国際NGO、International Social Service (ISS:本部ジュネーブ) の日本支部となり、1959年、厚生省(当時)によって社会福祉法人として認可されました。ISSJはこれまで60年間以上にわたり、社会の移り変わりに伴うニーズの変化に応じながら社会福祉の現場に携わっています。

<実績> ※日本国際社会事業団調べ

① サポートしてきた養子縁組の件数  
(1952年以来)

2,000 件以上

② 年間の相談件数  
(2015年度)

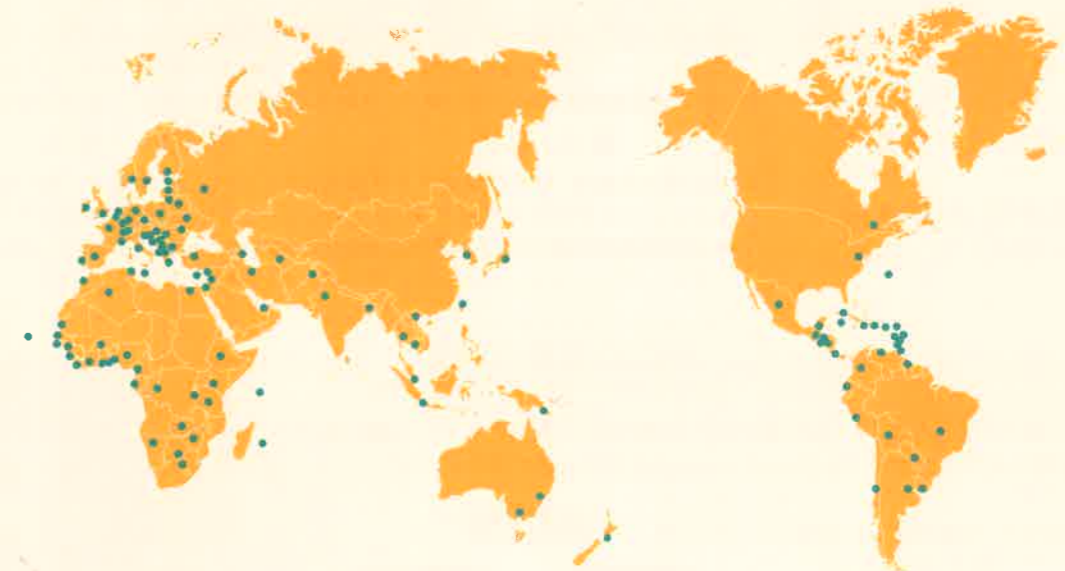
4,853 件

③ ケースで関係した国  
(2015年度)

64 カ国

### 世界に広がるISSのネットワーク

ISSJは、スイス・ジュネーブのISS本部および140か国のISSネットワークも活用して支援しています。



ISSJ's  
STAFF  
Message



### 社会福祉学・心理学を学んだ ソーシャルワーカーが相談に応じています



私たちは、ひとりひとりの立場に立って考え、感じ取ることを大切にしています。学ぶこと、学ぶべきことが尽きることはありません。国境を超えた「家族」について様々な想いに接するなかで、そうした想いに寄り添えるワーカーとなれるよう日々、尽力しています。私たちの活動へのご支援、よろしく願いいたします。



ISSJで支援した家族

## 事業内容

What we do

### 1 養子縁組支援

現在、虐待等を理由に社会的養護が必要とされる児童は全国で45,000人にのぼります。要保護児童の7割の子どもは乳児院・児童養護施設に入所しており、家庭養育の機会を得ている子どもの数は依然として低いのが現状です。日本は特別養子縁組という制度がありますが、6歳までの子どもを対象としており、学童期となった子どもの養子縁組が難しいという現状があります。きょうだいも別々の施設に入所することもあり、里親や養子縁組の場合も、きょうだいと一緒に委託されるケースは多くありません。ISSJは、学童期の子どもまで視野に入れ、ひとりでも多くの子どもに家庭を見つけれられるよう、養子縁組に取り組んでいます。

● 家庭を必要とする子どもへの支援

● 養親希望者の相談・支援

● 子どもを育てられない実親への支援

● ルーツ探し

養子、養親、実母にとって、養子縁組は生涯続くプロセスといえます。ISSJは養子縁組に関する記録を永年保存し、養子が実親やきょうだいと再会したい、なぜ自分は養子になったのか知りたいと望んだときのルーツ探しを支援しています。

### 養子縁組支援 CASE



りょう君 (仮名)

委託時: 4歳  
支援期間: 2年  
関係機関・関係者: 児童相談所、乳児院、実母、市役所、家庭裁判所

4歳のりょう君は実母が未婚で出産した後、育てることができず、乳児院に預けられていました。りょう君には姉がいますが、すでに里親さんに委託されていました。その里親さんはりょう君と一緒に受け入れることができず、乳児院はりょう君の養子縁組を目指して児童相談所と協議をしていました。

ISSJのソーシャルワーカーは児童相談所の依頼を受け、りょう君の実母の家庭訪問をし、養子縁組の意思を確認しました。また、りょう君の実父と実母の出会いと別れ、出産の経緯、命名にこめた思いなどを聞き取りました。さらに、乳児院にいるりょう君を訪ねて面会し、日常生活の様子や配慮すべき事項を担当保育士さんに確認しました。

その後ISSJでは、日本に暮らすアメリカ人の養親候補者にマッチングすることを決めました。夫妻はりょう君の受け入れを快諾し、夫妻の子ども3人を連れて乳児院での実習を開始しました。ある日、りょう君は担当保育士さんと会えなくなることを知り、ずっと新しいお父さんの膝の上に座って泣いていました。新しい家族はりょう君が乳児院で大切に育まれていたことを知り、感謝していました。実習の最終日、りょう君は乳児院のスタッフと笑顔でお別れをすることができました。りょう君は家族と生活する中でできることが増え、今ではお兄ちゃんと一緒にプールに行ったり、自転車に乗ってあちこちを走り回ることを楽しんでいます。

### 2 外国とつながりのある家族の支援

国境を超える人の行き来が多くなり、国際結婚や多国籍家族、外国籍住民はもう珍しくはありません。ISSJは、多文化に関する知識と経験を用いて多様な福祉ニーズに応じています。

#### 子どもの国籍取得支援

日本で出生後、在日外国公館に出生の届けがされないまま「無国籍」状態にある子どもが国籍を取得する手続きを支援をしています。家族が国外にいて、再会・再統合を希望する場合には、そのための手続き支援もおこなっています。

#### 面会交流

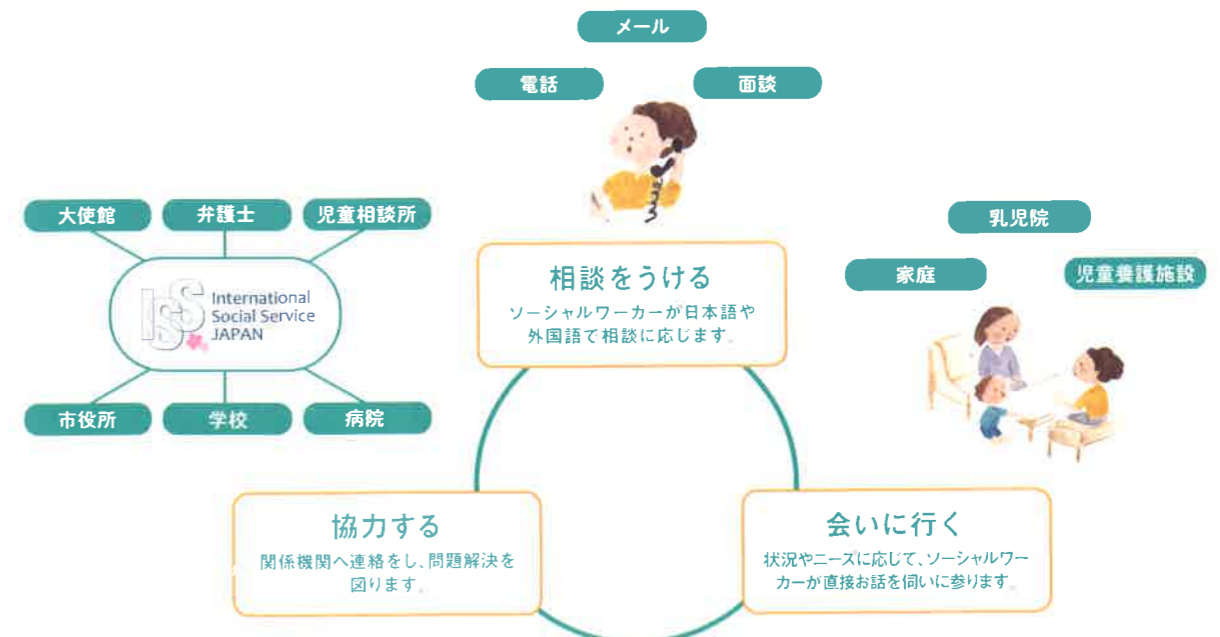
国際離婚・別居した後も、子どもが両親と交流できるよう支援しています。ISSJは、ハーグ条約(国際的な子の奪取の民事上の側面に関する条約)に基づく面会交流支援機関となっています(外務省支援事業)。

#### 日本で暮らす難民の支援

日本に暮らす難民・難民申請者および難民コミュニティが、地域の一人として安心して暮らせるよう生活相談や家庭訪問、カウンセリングをおこなっています。ISSJは、国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) のパートナー団体となっています。

### ISSJの支援の方法

社会福祉の援助技術を基本とし、法制度や文化・言葉の違いに配慮しながら、心理社会的アプローチを用いて支援をします。関係者間の連携を大切にしながら、寄せられた相談の内容やその人の状況に合わせて柔軟な支援を実践します。



# ISSJに相談しよう!

ISSJでは、専門のソーシャルワーカーが相談に応じます。  
各国支部をはじめ、関係省庁、裁判所、病院、福祉施設、学校などの関係機関と連携して、支援に取り組みます。  
相談内容、相談者のプライバシーは厳守します。お気軽にご相談ください。

## 電話で相談



下記電話番号までお電話ください。

**03-5840-5711**

月曜日-金曜日 10:00~17:00

## メールで相談



下記メールアドレスまでご連絡ください。

**issj@issj.org**

日本語・英語・タガログ語・タイ語

## 直接相談



お電話・メールでご一報の上、  
下記住所まで直接お越しください。

東京都文京区湯島1-10-2  
御茶の水K&Kビル3F

## 団体概要

### 団体名

社会福祉法人 日本国際社会事業団  
【英文名称】 International Social Service Japan 【略称】 ISSJ

### 所在地

〒113-0034 東京都文京区湯島1-10-2 御茶の水K&Kビル3F  
TEL:03-5840-5711 FAX:03-3868-0415

### 設立

1959年9月15日(厚生省認可)

### 事業内容

- ・養子縁組支援
- ・無国籍の子どもへの支援
- ・面会交流支援
- ・難民支援

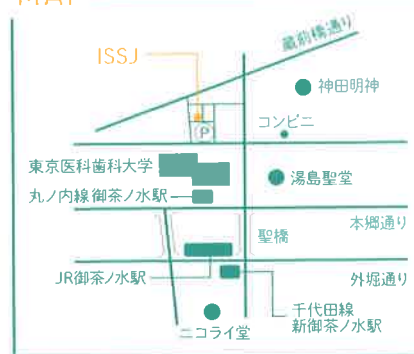
### 役員

理事6名 評議員7名 監事2名

### 会員

団体会員3 個人会員150(2017年3月)

### MAP



#### 【最寄駅】

JR中央線・総武線「御茶ノ水駅」聖橋口(東京駅寄りの改札)  
東京メトロ千代田線「新御茶ノ水駅」  
東京メトロ丸の内線「御茶ノ水駅」よりそれぞれ徒歩5分

## ISSJを応援しよう!

ISSJの活動は、個人や法人の会員の皆様からの寄付や、助成金によって支えられています。会員として継続的に支援していただく方法と、寄付で活動を支えていただく方法があります。皆様からいただいた会費や寄付はISSJの活動全般に使わせていただきます。

### 会員になる

会員とは継続的にISSJを支援して下さる方々のことです。  
年2回のニュースレター、事業報告書、イベント情報をお送りいたします。

- 個人・グループ会員: 5,000円(年一口)
- 団体会員: 50,000円(年一口)

※寄付領収書をお送りするため、ご住所・ご連絡先をお知らせください。

### 寄付する

ご寄付は税制上の控除を受けることができます。

#### ◎ 会費・ご寄付のお振込先

- ・三菱東京UFJ銀行 中目黒支店 普通 0397932
- ・ゆうちょ銀行 00190-7-64911  
加入者名 社会福祉法人日本国際社会事業団